

令和3～4年度企画展

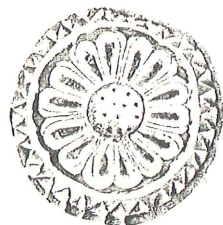
# 豊の古代瓦

Toyo

Ko-dai

瓦

Gawara



百濟系単弁八葉軒丸瓦 相原廃寺跡(中津市) 大分県立歴史博物館蔵



新羅系複弁八葉軒丸瓦 塔/熊廃寺跡(中津市) 中津市教育委員会蔵



川原寺系複弁七葉軒丸瓦 虚空蔵寺跡(宇佐市) 個人蔵(大分県立歴史博物館寄託) 大分県指定有形文化財



鴻臚寺系複弁八葉軒丸瓦 弥勒寺跡(宇佐市) 大分県立歴史博物館蔵



埴仏 虚空蔵寺跡(宇佐市) 教覚寺蔵 宇佐市指定有形文化財

瓦づくりは、今から3000年以上前の中国・西周時代に遡りますが、日本では飛鳥時代に最古の仏教寺院である「飛鳥寺」が建立された時に開始されます。『日本書紀』には、588年に朝鮮半島の百濟から4人の「瓦博士」が渡来したという記録があり、この頃の北部九州でも飛鳥寺とほぼ同じ時期に、独自の技法でつくられた瓦が遺跡から出土します。また、今から1300年前の奈良時代の初めには、大分県の宇佐地域などにも塔や金堂がある寺院が現れ、屋根には様々な文様を施した瓦が使われるようになりました。

瓦は建物を風雨から守る建築材ですが、古代においては宮殿や寺院の建物を壮麗に飾る道具でもあり、地域の支配者や有力者の権威の象徴でした。

今回の企画展では、主に大分県下の遺跡から出土した古代瓦を紹介し、瓦に施された様々な文様を楽しんでいただくとともに、その背景にある歴史的な意義を検討したいと思います。



## 大分県立埋蔵文化財センター

〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61  
TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700  
E-mail a31720@pref.oita.lg.jp  
<https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>

交通

- 自家用車: 大分駅から滝尾橋ルートで約10分。
- バス: (大分駅前(6)番乗り場) 大分バス「一里塚」行き14分、「牧」バス停下車、徒歩2分。
- JR: 日豊本線 牧駅下車、徒歩6分。\*大型バス駐車可能、普通車200台程度駐車可能。



レキシカくん マイカちゃん



新型コロナウイルスの影響により、展示やイベントが変更・中止になる場合があります。